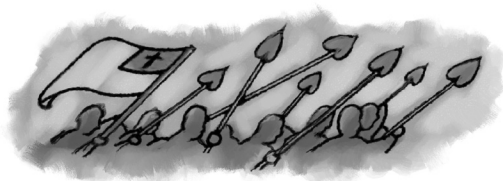


11 課

3月13日

行動する愛



安息日午後 3月6日

暗唱聖句

飢えた者にあなたのパンを施し、苦しむ者の願いを満ち足らせるならば、あなたの光は暗きに輝き、あなたのやみは真昼のようになる。(イザヤ 58:10、口語訳)

飢えている人に心を配り／苦しめられている人の願いを満たすなら／あなたの光は、闇の中に輝き出で／あなたを包む闇は、真昼のようになる。(イザヤ 58:10、新共同訳)

今週の聖句

イザヤ 55:1～7、イザヤ 55:6～13、イザヤ 58:1～12、イザヤ 58:13、14

今週のテーマ

ネブラスカ州リンカーンに住むユダヤ教徒である聖歌隊の独唱者夫妻が、卑猥な嫌がらせの電話に悩まされていました。それはアメリカの憎悪（ヘイト）グループであるクー・クラックス・クランのリーダーの1人からの電話であることがわかりました。相手がわかったので、彼を警察に突き出すこともできましたが、彼らはもっと過激な手段に訴えることにしました。犯人の足が不自由であることを知った夫妻は、鶏肉料理を持って、彼の家を訪ねたのです。思いもよらない出来事に、彼は腰を抜かすほど驚きました。こうして、夫妻の愛が彼の憎しみを溶かしました。夫妻が訪問を続けるうちに、いつしか彼らの間に友情が芽生え、彼はユダヤ教徒になりたいとさえ思うようになったのでした。

「わたしの選ぶ断食とはこれではないか。悪による束縛を断ち、軛の結び目をほどいて／虐げられた人を解放し、軛をことごとく折ること。更に、飢えた人にあなたのパンを裂き与え……」(イザヤ 58:6、7)。皮肉なことに、リンカーンに住む夫妻は、自分たちは食べず、飢えた「虐げる者」に自分たちのパンを分け与えることによって、彼を縛っていた不当な偏見の縄目から彼を解放したのでした。

今週は、預言者イザヤが描いているこの重要な霊的原則について、さらに学びます。

問1 「さあ、かわいている者は／みな水にきたれ。金のない者もきたれ。来て買い求めて食べよ。あなたがたは来て、金を出さずに、ただでぶどう酒と乳とを買い求めよ」（イザ55：1、口語訳）。この聖句には、どんな矛盾が見られますか。

あなたは食べ物を持って、大都市の街角で、空腹の人やホームレスの人々に向かって、次のように呼びかけているとします。「さあ、お金のない人は来て、買って、食べてください」。しかし、お金がない人たちがどうして買えるでしょうか。

そこで、イザヤがしたように、この呼びかけに「来て、金を出さずに、ただで……買い求めてください」（イザ55：1、口語訳）という言葉をつけ加えると、その意味がはっきりします。イザヤは人々に、遠慮せずに救しを受け入れるように訴えます（同7節）。しかし、「買い求めよ」という言葉は、神が人間の必要と求めに応えてお与えになるものは価値のあるものであり、それを受けるためには、（何かそれに見合うものとの）取引が求められることを強調しています。神は、その民との回復された契約関係を前提として、無償で人に救しをお与えになりますが、それは神にとっては無償ではありません。神はこの救しを、主の僕の悲惨な、血による代価をもって買われました。この救しが私たちにとって無償であるために、神は驚異的とも言える代価を支払われたのです。

問2 私たちの救いの代価は、何ですか（1ペト1：18、19参照）。

問3 イザヤの救いの理解は、新約聖書のそれと比較して、どのように似ていますか（エフェ2：8、9）。

イザヤが描写している旧約聖書の福音のエッセンスは、新約聖書のそれと同じです。神がアダムとエバに救世主の到来を約束されて以来（創3：15）、救いへの道はたった一つです。私たちは、「恵みにより、信仰によって救われ」たのです（エフェ2：8）。「神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスによる永遠の命なのです」（ロマ6：23）。だからこそ人々は、イエスと、イエスが彼らのために十字架で完成された救いについて知る必要があるのです。

救いは無償で与えられるものであり、それを得るために私たちにできることはありません。私たちの行いは、決して私たちの救いに見合うものではありません。しかし同時に、救いは私たちにすべてを捨てさせます。それはどういう意味でしょうか（マタ10：39、ルカ9：23、14：26、フィリ3：8参照）。

問4 なぜ神は、その思いと道が私たちのそれを「天が地を高く超えているように」高く超えていると言われるのでしょうか（イザ 55：8、9）。

神の創造された宇宙の最も単純な物でさえ、人間の知性では、その神秘の片鱗さえ測り知ることはできないとすれば、神の神秘という道の入り口に立った人間がその先を全く見通せないとしても、何ら不思議ではありません。神のこの無限の優越性を知るとき、私たちはただへりくだって、神の助けをいただくしかありません（イザ 57：15 参照）。

問5 イザヤ 55：6～9 を読んでください。神はどんな文脈の中で、ご自分の思いと道が人間の想像を超えて高いと言われたのでしょうか。私たちにはなぜ、それらが想像できないのでしょうか。

宇宙のすべての偉大な神秘の中で最も大いなる神秘は、疑いなく救いの計画です。私たちは、この神秘の理解という道の初めの数歩を踏み出しているにすぎません（エフェ 6：19 参照）。宇宙の創造主が身をかがめて人性を身にまわれ、骨折りと苦しみ^{ゆる}の生涯を送られたこと。そうすることによってのみ、私たちのために罪の犠牲として死ぬことがおできになったこと。そして、それらすべては、私たちを赦し、私たちに憐れみを示すためであったこと——これらは、神によって造られた者たちの心を、あらゆる時代を通じて永遠に捉えて放さない真理です。

「^{あがな}贖いという主題は、天使たちも垣間見たいと望む主題である。それは、永遠の時を超えて休みなく、贖われた者たちの学ぶ科学、そして歌う歌となるであろう。だとすれば、それはこの世にあっても、今から注意深く考察し、学ぶ価値のある主題ではないだろうか。……

この主題の学びに終わりはない。キリストの受肉、その贖いのための犠牲、執り成しの働きに関する研究は、時が続くかぎり勤勉な研究者の心を捉えてやまないだろう。永遠の年月を数えながら天をながめて彼は叫ぶだろう。『神の神秘のなんと偉大なことか!』（『私の今日のいのち』360 ページ、英文）。

あなたが傷つけた人々、あなたの語った不親切な言葉、人を失望させたふるまい、それらの良くない行動を謙虚に振り返ってみましょう。それでもなお、あなたはイエスを通して、それらすべてを赦され、神の目に完全で正しい者として、今立っているのです。これが神秘でないとしたら、他にどんな神秘があるのでしょうか。

問6 イザヤ 58：3にある「断食」は、何を意味しているのでしょうか。

イザヤ 58：3にある「断食」は、「贖罪日の断食」を意味します（レビ 16：29、31、23：27～32）。それは、レビ記の語法と同じように、イザヤ 58：3でも「苦行」という表現と合わせて出て来ることから明らかです。苦行（口語訳では「身を悩ます」）とは、断食を含むさまざまな自己否定を意味していました（詩 35：13、ダニ 10：2、3、12と比較）。

イザヤ 58章を「贖罪日」という背景を念頭に置いて読むと、「声をあげよ、角笛のように」（1節）という神のご命令も理解できます。「ショファール」と呼ばれたこの種の角笛は、贖罪日の10日前に、この日の記念、または合図として吹き鳴らされました（レビ 23：24）。さらに、50年目の贖罪日にも、ヨベルの年の解放の始まりを宣言するために、角笛が吹き鳴らされました（レビ 25：9、10、イザ 27：13と比較）。

問7 イザヤ 58：3～7を読んでください。主は、彼らの断食の誤りについて、どのように訴えておられますか。

イスラエルの民は、主が自分たちの「信仰深さ」を喜んでくださると期待したようですが、当然、彼らの断食は、その本来の意味とは全く裏腹のものでした。贖罪日に行われる自己否定の行為は、神に対する感謝と忠誠心を表すためでした。大祭司はこの日に、聖所を清めるために神のみ前に出るのであり、それはすでに赦されている罪から彼らを清めるためでした（レビ 16章を4章と比較）。その行為は、裁きの日に彼らを救ってくださった神に対する感謝と謝恩のしるしとして行われるべきであり、彼らの「信心深さ」や「献身」を神に認めていただくためではないのです。結局のところ、神の聖所を汚していたのは、主の民のそのような罪だったのです。汚された聖所は、血をもって清められなければなりません。そして、その血は彼らがした行い〔罪〕のために流されるのでした。

今日の聖句が示す非常に重要な点は、単に信心深くあることと、真にキリストに従うことの違いです。その違いとは、何でしょうか。私たちもキリストに従っていると信じながら、このような偽りの宗教儀式を行ってはいないでしょうか。

神の民に、主が彼らの王であることを思い起こさせる角笛が鳴って10日後、民の自己否定の行為によって、彼らの王なる神への忠誠が確認される、まさにその贖罪日の当日、預言者は角笛のような声をあげて、彼らの背きを宣言するのです（イザ58：1）。

問8 イザヤ58：6～12にある真の自己否定の行為とは、何ですか。結局のところ、自分の食事を数回抜くことと、自分の時間とお金を使って近所のホームレスに食事を提供することとでは、どちらが難しいですか。二つの行為の背後にある原則は、何でしょうか。このような行為は、どのようにして真の宗教の一部となりますか。

だれでも宗教的にはなれます。だれでも決められた時間に、決められた形式に従って、決められた儀式を行うことさえできるかもしれません。しかし、主はそれ以上のことを求めておられます。イエスの生涯を考えてください。イエスは当時の宗教儀式に忠実でしたが、福音書記者はなぜ、イエスの儀式に対する忠実さではなく、貧しい人々のためのイエスの憐れみ、いやし、パンの奇跡、それを必要とする者たちへの^{おこし}赦しに、これほど多くの紙面を割いたのでしょうか。

主は、福音を世に伝える教会、福音を世に伝える民を求めておられます。人々をイエスにある真理に引きつけるものは何でしょうか。食べ物に関する律法に厳格に従うことでしょうか。それとも、空腹の人を喜んで助けることでしょうか。安息日を厳格に守ることでしょうか。それとも、自分の時間と労力を割いて困っている人々を助けることでしょうか。

問9 マタイ25：40とヤコブ1：27を読んでください。これらの聖句は、私たちに何を語っているのでしょうか。

イザヤ58章で神は、恵まれない人々に仕える人には祝福があると言われます。それは、人々に仕えるとき、私たちの人生に超自然的な介入があるという約束でしょうか。それとも、利己心や貪欲を捨て、自分の利益をおいて他者に自分を与えることによって、自然に祝福を受けるということなのでしょうか。

問 10 ここでイザヤは、なぜ安息日について論じているのでしょうか。先の贖罪日と関係があるのでしょうか。

年ごとの贖罪日は、安息日でした。この特別な儀式的な安息日は、週ごとの安息日のように、どんな働きも禁じられていました（レビ 23：27～32）。したがって、初期のアドベンチストも認めていたように、贖罪日における安息が夕暮れから夕暮れまで続くという規定（同 32 節）は、週ごとの安息日についても真実でなければならないことを私たちに告げています。同様に、イザヤ 58：13、14 は、基本的に儀式的な贖罪日としての安息日という文脈の中で書かれていますが、その内容は週ごとの安息日にも適用されます。

問 11 イザヤ 58：13 を読んでください。安息日はなぜ、このような日として描写されているのでしょうか。どうしたら私たちもそのような安息日の経験に入ることができるのでしょうか。

イザヤ 58 章は、自己否定、社会に奉仕する親切心、安息日という三つの主要な主題を扱っています。これらは互いに、どのように結びついているのでしょうか。

第一に、三つとも、自分でなく神に心を向けること、神を第一にすること、そして私たちは神に依存する存在であることを認めることを含みます。第二に、人間はこれら三つすべてを通して、神がそうであられるように聖さを求めるのです（レビ 19：2）。キリストは、おのれをむなしくして人間の姿になられ（フィリ 2：8、口語訳）、自己犠牲の親切心〔愛〕を行動によって示し（ヨハ 3：16）、そして創造週の終わりに、その働きを終えて安息日にお入りになったのです（創 2：2、3、出 20：11）。

イザヤ 58 章に描かれた自己否定、社会に奉仕する親切心、安息日の間には、他にも次のような結びつきがあります。安息日は週ごとの労働から人を解放し、元気を与えるという意味で人に親切です（出 23：12、マコ 2：27）。イエスは、親切な行為は安息日にこそふさわしいものであることを示されました（マコ 3：1～5、ヨハ 5：1～17）。真の安息日順守（イザ 58：14）は、人を助けると同時に喜びをもたらします（同 10、11 節）。このような祝福を体験するために、あなたの生活で何か変えなければならないことがあるのでしょうか。

「克己がなければ、どんな人でも真の慈善を実行できない。ただ単純と克己と厳しい節約の生活によって、初めてキリストの代表者として示された働きを遂行できるのである。高慢や世的な野心を心から捨て、あらゆる働きの面で、キリストの生涯の中に示されている無我の原則が、実行されなければならない。わたしたちの家の壁や額や家具に『さすらえる貧しい者を、あなたの家に入れ』という文字が書かれ、たんすには神の書かれた『裸の時に着せ』という言葉が、読みとられなければならない。また、食堂では豊かな食物を載せた食卓に、『飢えた人にあなたのパンを裂き与え』と記されているのを見なければならない」（『ミニストリー・オブ・ヒーリング 新装版』134、135 ページ）。

話し合いのための質問

- ① 「なぜ、糧にならぬもののために銀を計って払い／飢えを満たせぬもののために労するのか。わたしに聞き従えば／良いものを食べることができる。あなたたちの魂はその豊かさを楽しむであろう」（イザ 55：2）。イザヤが彼の時代に民に投げかけたこの問いは、あなた自身に何を語りかけるでしょうか。私たちも同じわなに陥っていないでしょうか。
- ② 自己否定、社会に奉仕する親切心、安息日が、イザヤの時代の贖罪の日に重要であったなら、神の歓喜の角笛が究極の解放を宣言するキリストの再臨という終わりの時代の贖罪の日（ダニ 8：14）に備える私たちにも、同じように重要なのではないのでしょうか（1コリ 15：52、レビ 25：9、10 と比較）。
- ③ イザヤは、安息日には自分の楽しみから離れると同時に、「喜びの日」（イザ 58：13）とするべきであると言っていますが、どうすればこれを両立できるでしょうか。58 章全体を念頭に置いて、安息日の守り方についてクラスで話し合ってみましょう。

まとめ

イザヤ 55 章と 58 章で、イザヤは、彼らの思いと道を捨て、神に立ち帰るように訴えます。神の彼らの幸福のための思いは、彼らの思いをはるかに超えて高いからです。神は、神が憐れみをもって赦されたように、赦された者も憐れみ深くあることをお求めになります。それは贖罪の日と安息日の精神とも調和するものです。なぜなら、神の赦しという賜物は、それが真実に受け入れられるなら、心をつくり変えるからです。

不釣り合いな軛^{くびき}

私はセブンスデー・アドベンチストとして育ち、南台湾の他教派の人とは結婚したくありませんでした。しかし両親は結婚を望み、従わなくてはなりませんでした。

そこで私は、将来の主人ミン・ファン・ウに、「あなたと結婚しても、私は教会を変えません」と言いました。その時点では問題ありませんでしたが、実際に結婚について話を進めると食い違い始めました。私はアドベンチスト教会での式を希望しましたが、彼は反対しました。私は、「それなら結婚式を教会の外で行いましょう」と提案しました。「司式はアドベンチストの牧師にしてもらいたいわ」

しかし、議論はかみ合いません。ついに私は、「アドベンチストの牧師でなければ、あなたと結婚しません」と言いました。ミン・ファン・ウが母親に相談すると、母親は、アドベンチストの牧師の司式を許してくれました。しかし、母親には秘密の考えがありました。結婚後に私が彼女の信仰に改宗するだろうと思っていたのです。

私はまだ、他教派の人と結婚することに気が進まないことを、ミン・ファン・ウに告げました。しかし、村全体は私たちの結婚について、すでに知っていました。中止すると、面目を失うことになってしまいます。

結婚式の1か月前、ミン・ファン・ウは聖書研究をし、バプテスマを受けました。私はその日を決して忘れないでしょう。彼は結婚したかったので、水から上がったとき、泣いていました。しかし彼は、飲酒という古い生活からは離れたくありませんでした。彼の母親はお酒を飲む息子を、私に変えてほしいと願っていました。結婚して7か月の間、私は彼に健康的な食事を作り、いかに健康的に生きるかを教えました。隣人たちはミン・ファン・ウに「あなたは生まれ変わった」と言いました。

しかし彼は、娘が生まれると再び飲酒を始めました。10年が経ち、次女が生まれました。私と夫は、信仰をめぐるたくさんの衝突がありました。ある日、限界を感じた私は、娘たちを連れて故郷の友人の家に行きました。夫は3日間私を探し続け、私を見つけたとき、ついに生き方を変えました。彼は真に新しい人になったのです。

今日、彼は良い夫であり、父親です。教会の長老でもあります。しかし私は、この「厳しい道」を再び歩みたいとは思いません。神の助けで彼を変えることができたと思ったから、結婚しました。聖書が「不釣り合いな軛につながらてはなりません」(コリントの信徒への手紙2・6章14節)と教えているのは、正しいと思います。同じ信仰の人と結婚するのがより良いことなのです。世界で最も賢い人、ソロモンは、厳しい道からこの真理を学びました。私も同じでした。

